

今週（6月10日から6月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は、13日までは393兆円前後で推移し、14日は年金定時払い要因により、400兆円程度まで大幅に増加した。無担保コールO/N物は、積みの最終週ながらも取り調整の動きは限定的で、地銀業態の一部で見られた程度であった。10～13日までの出会いレンジは都銀業態▲0.075～▲0.07%、信託業態▲0.065～▲0.06%、地銀業態▲0.07～▲0.04%、証券業態では▲0.06～▲0.05%であった。来積み期にかかる14日の取引では、午後の一部で取り調整の動きがあったものの、全般的に見れば弱含みで推移した。加重平均レートは概ね▲0.06～▲0.05%台後半で推移した。ターム物は14日の年金定時払いや、来週20日の国債の大量償還を見込んでか、地銀業態を中心に14日以降の資金運用ニーズが強く、月内物を中心に▲0.05～▲0.04%近辺の出会いが複数見られた。週末の14日にかけては▲0.06%台の運用ニーズが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは13日に1兆5,000億円がオファーされ、593億円（期落ち額673億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.140～▲0.075%のレンジでの取引となった。週を通して業者の売物はしっかりと入っていたものの、一時強い買いが入る場面ではレートを下げての出会いもあった。

SCは個別銘柄では5y133～139、10y334～354、20y164～168、30y57～62、40y11～12などのカレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、オペの軟調な結果を受けて全般的に小甘く推移し、3M物では▲0.145～▲0.140%近辺での出会いが見られた。ただし、6M超えの銘柄については、堅調な債券相場を反映してレート上昇は限定的だった。

11日に実施された短国買入オペは5,000億円でおfferされた。応札額が21,156億円と多く、平均落札利回較差+0.011%、按分落札利回較差+0.006%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150%から▲0.1575%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1483%、按分落札利回▲0.1407%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.140～▲0.139%出会いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は入札において小売・ゴム製品・鉄鋼等の業態において大型発行が見られたものの、償還総額が8,500億円程度に対して発行総額は7,000億円弱と、償還超となった。市場残高は20.6兆円程度と先週に引き続き高水準で推移し、昨年同時期比で約3.1兆円積み上がりしており、その大部分は一般事業法人の続伸によるものである。今週は限度額を拡大させた陸運企業の連日発行や新規銘柄の初発行が相次ぎ、今期も一般事業法人のCP活用は一段と積極化していくものと考えられる。投資家の買い余力は十分にあるため発行レートに特段の上昇圧力は働かず、発行残高が積み上がっている銘柄や大型発行した銘柄では0%近辺の狭いレンジで推移する一方で、発行頻度が低い期越え銘柄には強い買いが見られた。

11日にはCP等買入オペがオファー額2,500億円を実施された。前回と同額ではあったが、買入対象となった高レートの銘柄数が限定的であり、月半ばの入れ替えニーズが弱かったことで、入札結果は平均落札レート▲0.002%・按分レート▲0.003%と、前回（平均0.001%・按分▲0.001%）比で平均・按分レート共に若干低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/10（月）	21,134.42	△ 0.125	108.49	△ 0.056	△ 0.095	3,925,600
6/11（火）	21,204.28	△ 0.115	108.60	△ 0.057	△ 0.111	3,932,200
6/12（水）	21,129.72	△ 0.115	108.45	△ 0.058	△ 0.113	3,931,000
6/13（木）	21,032.00	△ 0.116	108.33	△ 0.057	△ 0.127	3,934,900
6/14（金）	21,116.89	△ 0.130	108.38	△ 0.061	△ 0.112	4,002,600

## 来週（6月17日から6月21日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/17 (月)	4月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				
6/18 (火)	月例経済報告(内閣府)	5Y 19,000億円 6/19発行			米FOMC(1日目) 5月の米住宅着工件数 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値
6/19 (水)	全国信用金庫大会において衛藤理事講演 日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 5月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 19,000億円 6/20発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の英消費者物価指数
6/20 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)				英中銀MPC結果発表
6/21 (金)	5月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,700億円 6/24発行			5月の米中古住宅販売

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/17 (月)	100	3,200	3,300	国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完					
					▲ 200 ▲ 100 100	6,000 700	6,500	9,800	TB3M発行▲43300償還42900 2Y償還10300 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3700 個人向け3Y・5Y償還500
6/18 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
6/19 (水)	0	▲ 25,000	▲ 25,000	貸出増加支援	▲ 21,400		▲ 21,400	▲ 46,400	5Y発行▲19000
6/20 (木)	▲ 2,000	82,000	80,000				0	80,000	利払い TB1Y発行▲19000償還13200 5Y償還31100 10Y償還47500 エネルギー対策借入▲7500期日7500
6/21 (金)	▲ 2,000	0	▲ 2,000				0	▲ 2,000	機関貸付回収 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,900	62,200	58,300	—	▲ 21,600	6,700	▲ 14,900	43,400	

6/17は日銀予想、6/18以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、14日の年金定時払いに加えて、20日に国債の大量償還があり大幅な資金余剰となることや、積み序盤ということを受け、無担保コールO/N加重平均レートは低位での推移が続くことが見込まれる。レポ市場は、足元のGCは、業者の売りが継続すると思われ、▲0.120~▲0.08%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、19日に1Y物、21日に3M物の入札が実施予定となっている。新積み期に入りファンディングレートの低下も予想される中、需給面のレート水準への影響など、市場動向が注目される。CP市場は特段のイベントは無いものの、週間償還額は1.2兆円程度あることから、期越え銘柄の発行がどれだけ膨らむかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では19~20日の日銀金融政策決定会合、21日に5月の全国CPI、海外では18~19日にFOMC、20日にMPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入